

令和 2 年 6 月 22 日現在

機関番号：32607

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K20778

研究課題名（和文）急性期病院の認知症高齢者ケアの質向上のためのリンクナース育成プログラムの構築

研究課題名（英文）Building a training program of link nurses to improve the quality of care for the elderly with dementia in acute care hospitals

研究代表者

片井 美菜子 (Katai, Minako)

北里大学・看護学部・助教

研究者番号：80623529

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、「急性期病院の認知症高齢者ケアの質向上のためのリンクナース育成プログラムの構築」を目的に実施した。施設の協力を得て、認知症ケアリンクナース活動を実施し、その活動の評価を行った。リンクナースメンバーからは、主体的に活動でき、病棟の枠を超えた情報共有ができたという前向きな評価が得られた。一方で、病棟による認知症ケアの現状と課題に違いがあり、病棟間での取り組みに差がみられる現状も明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究において、認知症ケアリンクナースとして活動した看護師からは、活動以前と比較してより主体的に院内の認知症ケア教育・指導の役割を担うことができたという反応が得られた。認知症ケアリンクナースに関する知見は少なく、学術的意義を有していると考えられる。そして、このような認知症ケアリンクナースが広く医療施設に導入されることで、組織全体の認知症ケア支援体制が強化され、認知症ケアの質向上に繋げるという社会的意義を有していると考えられる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to build a training program of link nurses to improve the quality of care for the elderly with dementia in acute care hospitals. With the cooperation of the facilities, we carried out dementia care activities by link nurses and evaluated them. Link nurses who participated in the activities gave positive evaluations because they were able to work independently and to share information across the departments. On the other hand, it was also clarified that each department have different situation and issues in dementia care and there is some gap in dementia care activities among departments.

研究分野：高齢者看護

キーワード：認知症看護 リンクナース

## 1. 研究開始当初の背景

わが国は高齢化の進行とともに、認知症高齢者も年々増加している。厚生労働省によると、認知症高齢者の数は、2012年で462万人、2025年には約700万人になると推計されており、65歳以上の高齢者の約5人に1人に達すると見込まれている<sup>1)</sup>。それに伴い、認知症高齢者が医療施設を受診し、認知症以外の疾患治療の目的で入院する機会も増えている<sup>2)</sup>。認知症高齢者ケアにおいて問題となる認知症高齢者の大声や暴力の原因として、湯浅ら<sup>3)</sup>は、医療スタッフが認知症高齢者ケアに不慣れであるため認知症高齢者の特性や心情を十分理解できず、パターン化された対応や医療処置をそのまま実施しようとすることを報告している。更に研究者が行った先行研究<sup>4)</sup>では、急性期病院に勤務する多くの看護師が認知症高齢者をケアする際に、困難を抱えている実態が明らかになった。このことから、医療施設における認知症高齢者ケアの充実には、入院環境の整備に加えて、医療者に対する教育・支援が求められている。

このような社会的背景のもと、2015年から認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）が策定され、「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の良い環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現」を目指した取り組みが求められている<sup>5)</sup>。

病院においては、2016年度の診療報酬改定では「認知症ケア加算」が新設され、入院した認知症高齢者に対する病棟での取り組みや多職種チームによる介入が評価されるようになった<sup>6)</sup>。これに合わせて、看護職員の認知症対応力向上のための研修事業として、各都道府県及び指定都市で一般病院の看護職員を対象とした「看護職員認知症対応能力向上研修」として開催されるなど、認知症高齢者の入院環境でも、認知症ケア向上のための取り組みも行われている。

一方、看護職員認知症対応能力向上研修受講により、認知症ケアに関する一定の知識や技術は身につくものの、病棟全体として、認知症ケアの質向上のために取り組んでいくには、受講した看護師のみでなく、病棟全体の協力が不可欠である。病棟に入院している認知症高齢者に対するケアの質の向上に病棟単位で取り組んでいくための活動の一案として、「看護職員認知症対応能力向上研修」受講後の複数看護師による院内でのチーム活動の有効性について検討する必要があると考えられる。

本研究を実施することにより、認知症ケアの向上のための看護師によるリンクナース活動についての評価を通して、組織的に認知症ケアの質を向上していく体制を作るための基礎資料となると考えられる。

## 2. 研究の目的

本研究は、「急性期病院の認知症高齢者ケアの質向上のためのリンクナース育成プログラムの構築」を目的に、認知症ケア向上に向けて取り組んできたリンクナース活動の評価

を行うことにより、病院に入院する認知症高齢者に対する、認知症ケアの向上のための取り組みの基礎資料とすることである。

### 3. 研究の方法

第1段階として、リンクナース育成に向けたプログラムのための文献検討を行い、認知症ケアのエキスパートの高度実践者および看護教育の専門家等から助言を得た。次に研究協力施設において、「病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修」を受講した認知症リンクナース候補者とともに院内リンクナース活動の内容を検討し、実践へと繋げた。

第2段階として、第1段階での検討を基にプログラム試案した認知症リンクナース活動を1年間実施し、その後リンクナースを対象としたグループインタビューを実施し、リンクナース活動の評価および考察を行った。

#### (1) 対象者

研究協力施設に勤務する看護師で2016年度看護職員認知症対応力向上研修を受講した者

研究協力施設において2017年度から認知症ケアチームの下部組織として活動を開始した認知症ケア向上に向けたリンクナース活動（研修会や事例検討会等の企画・実施）に参加している看護師

研究に関する説明を受けた上で、自由意思により研究への参加に同意を得られた者

#### (2) 認知症リンクナース活動について

表1 リンクナース活動年間計画

第1回	認知症セミナーの企画・準備
第2回	認知症セミナーの企画・準備
第3回	認知症セミナーの企画・準備
第4回	認知症セミナー開催（1回目）
第5回	認知症セミナー開催（2回目）
第6回	認知症セミナー開催（3回目）
第7回	事例検討会
第8回	事例検討会
第9回	まとめ

**表2 認知症ケアセミナーの概要**

全3回コース	セミナー内容
1回目(60分)	認知症の人を理解する DVD視聴「折り梅」・グループワーク
2回目(60分)	認知症ケアの基礎知識 講義
3回目(60分)	認知症ケアのプチ体験の共有 グループワーク

(3) リンクナース活動後のグループインタビュー項目

リンクナース活動の評価と課題

自身の認知症ケアについて

病棟スタッフの認知症ケア

今後、リンクナース活動をより発展させていくために必要なこと

4. 研究成果

対象者は、院内活動に参加していた看護師 8 名のうち、研究の趣旨及び方法についての同意が得られインタビュー実施日に参加した 6 名で、2018 年 4 月に実施した。インタビュー結果より、以下の点が活動の評価として挙げられた。

- (1) 院内活動を通してメンバー間で話し合いを重ねながら、認知症ケアセミナー参加者が現場で実践に活かせる内容になるように企画・実施に取り組んだ。実際のセミナー参加者からも、「職種や病棟の枠を越えて体験を共有でき、学んだことを早速実践に取り入れたい」といった反応が多く聞かれたことから一定の評価はできる。日々の看護実践の中で、認知症ケアの成功体験を重ねていくことが重要であるため、体験の共有を行うグループワークをセミナーに取り入れたのは効果的だった。一方で、全 3 回コースにしたことで勤務調整の難しさから参加できなかった職員もいたため、次回以降のセミナー企画への課題となった。
- (2) 事例検討会を通して、自部署での取り組みをメンバー間でも情報共有でき、そこで得たアイデアを病棟に還元できたメンバーもいた。
- (3) 病棟による認知症ケアの現状と課題の違いから、各部署での取り組みに差がみられた。また、院内の認知症ケアチームと今後どのように連携していくかが今後の課題の課題として明らかとなった。

<引用文献>

内閣府 . 高齢社会白書 (2017 年度版)

[http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2017/html/zenbun/s1\\_2\\_3.html](http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2017/html/zenbun/s1_2_3.html)

(2017.10.8.アクセス)

島橋誠. 【一般病棟の認知症患者 日常生活と療養を支える】 看護の基本姿勢 入院時アセスメントと看護ケアのポイント. ナーシング・トゥデイ, 27(1), (2012).10-17.

湯浅美千代, 杉山智子, 仁科聖子, 工藤綾子, & 杉山典子. 身体的治療を受ける認知症高齢者への看護スキルとその構造 高齢者専門病院の一般精神科身体合併症病棟看護師への面接から. 医療看護研究, 5(1), (2009).53-60.

片井 美菜子.長田 久雄.認知症高齢者ケアにおける一般病院看護師の困難の実態. 日本早期認知症学会誌. 7(1). 2014.72-79.

厚生労働省.認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)の概要~認知症高齢者にやさしい地域づくりに向けて~.2015 .

[http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-](http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/0000079008.pdf)

[Roukenkyoku/0000079008.pdf](http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/0000079008.pdf) (2017.3.5.アクセス)

島橋誠.【急性期病院における「認知症ケア」のためのスペシャリストの活用】なぜ「認知症ケア」にスペシャリストが必要なのか.看護展望.41(8).2016.0702-0708.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 片井美菜子, 行俊 可愛, 小山 幸代
2. 発表標題 「看護職員認知症対応力向上研修」受講者の認知症ケア向上に向けた院内活動1年目の評価
3. 学会等名 第20回日本早期認知症学会学術大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	小山 幸代  (KOYAMA Sachiyo)		